



宮崎公立大（宮崎市）で
2日、宮崎日日新聞社によ

公立大生に本紙部長ら講義 「時事問題ガイド」始まる

宮崎公立大（宮崎市）で2日、宮崎日日新聞社による講義「時事問題ガイド」がスタートした。本社の部長やデスクらが講師となり、県内の政治、経済などさまざまなテーマについて解説する。来年1月まで計15回行い、学生約110人が受講予定。（6面に講義要旨）

初回は、編集局整理部の古里智彦編集委員が「新聞でニュースに触れる意義と紙面づくりの裏側」と題して講義した。SNSは利用者の関心に合う情報は表示されるため、似た意見や情報ばかりに触れる「フィルターバブル」が発生しやすい一方、新聞はさまざまな情報と偶然出合える特徴があることを説明した。この日の朝刊も配布し、ニュースを報じる流れや紙面の構成を紹介。レイアウトや見出しの付け方など、さまざまな工夫も伝えた。

講義は同大学と本社による「包括的連携協力に関する協定書」（2015年締結）に基づく。取材者の立場から県内の時事問題について説明し、理解を深めてもらおうと実施している。